

たくさんの想いととも走る

そらぶちキッズキャンプ
プログラムディレクター **若野貴司** (のんのん)

先日、多くの人に支えられ、東京マラソンにチャレンジすることができました。今回、東京マラソンを走らせてもらおうと決めたのは、ひとつの想いがあったからです。これまでそらぶちキッズキャンプを通して、子どもたち、家族、ボランティアとたくさんの出会いがあり、日々チャレンジを続けている子どもたちや家族の存在を知り、みんなから大きな勇気をわけてもらいました。そんなたくさんのおみなにそらぶちは支えられていて、そこに関わる仕事ができる喜びと、みんなへの感謝の気持ちを胸に、精一杯走ろうという想いがありました。

マラソン本番までも、たくさんの方が想いを届けてくれました。そらぶちのチャリティーランナーとして走れるようにたくさんの寄附をしてくれたキャンパーやボランティア、家族、また手作りそらぶちワッペンをひとつひとつ想いを込めて作ってくれたボランティア、そして遠くから応援メッセージを贈ってくれたみんな、たくさんの熱い想いと共に当日を迎え、スタートラインに立つことができました。

たくさんの応援をもらいながらも、当日の朝を迎えた時は、みんなが待っている41km地点まで本当にたどりつけるだろうかと不安がよぎりました。けれども、そんな不安を吹き飛ばすかのように、沿道ではキャンプのボランティアや職場の仲間、そらぶちにきた子どもたちや家族が待っていてくれ、今にも歩き出しそうな自分に「のんのん！」「がんばれ！！」と精一杯の声をかけて背中を後押ししてくれたのです。

マラソンも後半にさしかかり、どうにもこうにも走れなく、歩き出してしまった時、キャンパーのみんなが贈ってくれた応援メッセージを、何度も読み返したことを思い出しました。応援メッセージを読んでいると、一緒にキャンプ場で過ごした時のみんなの笑顔が思い出され、そのみんなが待っていてくれる！という心の支えが、止まってしまうような自分の足を前へ前へと押し出してくれたと思います。

強い風が吹いて気温も下がる中、最後の坂を上りきったところに、そらぶち応援団のみんなはずっと待っていてくれました。寒い中ずっと待たしていた申し訳ない気持ちとみんなにやっと会えて本当に良かったという安心感から震える声で「待っていてくれて、ありがとう。」と呼びかける自分に、みんなは力いっぱい声で名前を呼び、笑顔で肩をたたき、ぐっと手を握ってくれました。あたたかい気持ちで、ずっと支えてくれたみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。

マラソン終了後のそらぶちカフェで、そらぶちに寄付して下さったチャリティーランナーの皆さん、そらぶち応援団のサポートをしてくれたボランティアの皆さん、そしてずっと応援してくれた子どもたちや家族に会えた時、そらぶちには本当にたくさんの人の想いが込められているキャンプなんだと心から感じました。

待っていてくれる人がいるということ、またたくさんの方がひとつのことに向けて想いを込めて行動してくれていることに心から感謝します。これからもかけがえない時間が過ごせるキャンプをみんなで創っていきながら頑張ります。今回、東京マラソンにかかわってくださったみなさま、本当にありがとうございました。

